



# 目次

■まえがき	1	1-12 登録人名小記——松本良順の門人名簿	64
■編集方針・凡例	2	1-13 五十年前の日本——ヘボンの回顧談	67
序章 総説	9	第5節 維新内戦と医療	70
§1 日本医学の系譜	9	*資料	
§2 蘭方医学の受容	10	1-14 日本陸軍病院記録	71
§3 日本近代医学の100年	12	1-15 『復古記』における医療	74
§4 明治期の医学の問題点	15	第2章 軍隊医学の発生	79
第1章 西洋医学への傾斜	19	第1節 集団医学の発足	81
第1節 牛痘種痘の導入をめぐる	20	*資料	
*資料		2-1 陸軍軍医寮職員令および事務章程	81
1-1 痘苗取寄歎願書	22	2-2 病兵表	89
1-2 白神除痘弁	24	2-3 統計に就て	91
第2節 コレラの侵入	26	第2節 西南戦争と医療	93
*資料		*資料	
1-3 安政箇条流行記概略	28	2-4 軍団病院日記抄	94
1-4 防恙法建立執行之建議	32	2-5 博愛社設立願書	100
1-5 明治初年の新聞に見るコレラ	33	2-6 大阪陸軍臨時病院報告摘要	102
1-6 コレラ一揆	34	第3節 脚気と軍隊	119
第3節 迫られた検梅法	39	*資料	
*資料		2-7 脚気病院報告	121
1-7 『養生法』における性病	40	2-8 海軍脚気病予防事歴	122
1-8 長崎のロシア水兵慰安所の規則書	42	2-9 麦飯採用禁止についての訓示	126
1-9 横浜梅毒病院覚書および同病院収支表	42	2-10 麦飯喫食ノ訓令	127
1-10 新聞の検梅記事	44	2-11 脚気病調査ニ関スル建議案	128
第4節 西欧人医師による教育	44	2-12 臨時脚気病調査会調査細則	129
*資料		第3章 “御一新”と医療	131
1-11 日本における五年	48	第1節 ドイツ医学の採用	132

*資料	4-8	大日本私立衛生会発会紀事略	197
3-1	4-9	独逸医学輸入に関する覚書	133
3-2	4-10	医学教育建白書	134
3-3		外人教師招聘に関する日本政府と プロシヤ公使間の協定書	135
3-4		外国医師招聘見込書	137
3-5		明治戊辰ヨリ学校履歴	137
第2節		医学学校と病院の盛衰	141
*資料			
3-6		医学塾の開設届	145
3-7		慶応義塾医学所の学生募集広告	146
3-8		療病院談	146
3-9		埼玉医学講習所規則	149
3-10		済生学舎の開校と廃校の広告	150
3-11		明治12年度医学学校一覧	151
3-12		蘭嚙医院定則	152
3-13		青森病院設立経緯一件	153
3-14		明治15年度病院概況	156
3-15		明治12~20年に群馬県会でとりあ げた医事	159
第3節		保健行政の設計と変貌	162
*資料			
3-16		医制	163
3-17		愛知県ニ於テ衛生警察ヲ設ケント スル概略	168
3-18		松香私志	169
第4章		衛生知識の普及運動と医学	181
第1節		風土病への関心	182
*資料			
4-1		片山記——日本住血吸虫症の最初 の記録	183
4-2		肺及肝吸虫症研究ニ関スル意見書	183
4-3		恙虫病研究についての建議	185
4-4		恙虫病病原調査転末	185
4-5		富山県下ノ奇病ニ就キテ	188
第2節		大日本私立衛生会	191
*資料			
4-6		設医学会社定学級議案	193
4-7		愛衆社型典彙編	195
4-8		大日本私立衛生会発会紀事略	197
4-9		通俗衛生演説会の流行	197
4-10		衛生唱歌	198
第3節		日本の生活への医学的批判	199
*資料			
4-11		小児ヲ背負フノ害ヲ論ズ	200
4-12		日本風ノ屨履ト靴靴ノ利害便否	201
4-13		日本服ト洋服ト衛生上利害如何	202
4-14		日本食料調査報告	204
4-15		非日本食論ハ将ニ其根拠ヲ失ハン トス	209
4-16		脚気病婦人ノ乳汁ハ小児ニ害アリ	213
第5章		医学における自立体制の整備	219
第1節		帝国大学令と医育論	221
*資料			
5-1		明治10年東京大学医学部教員一覧 および明治26年東京帝国大学医科 大学教職員一覧	226
5-2		医育論	227
5-3		日本医育論	232
第2節		帝国大学の講座制と各種学会の 設立	246
*資料			
5-4		第1回日本医学会の開催	248
5-5		第1回日本連合医学会の開催	252
5-6		国家医学講習科設立ノ主意及規則	254
5-7		ベルツの日本医学批判	254
第3節		医学における“細菌学時代”の 導入	260
*資料			
5-8		伝染病研究所設立ノ必要	260
5-9		顕微鏡技術の回顧	262
5-10		東京顕微鏡院一覧	266
5-11		日本ニ於ケル細菌学沿革小史	267
5-12		本邦に於ける外科学二十五年の回 顧	270
5-13		臨時陸軍検疫部報告	273
第4節		日本医学の海外進出	277

*資料	
5-14	同仁会主意書および規則草案…………… 279
5-15	ベスト病の原因取調に就て…………… 280
5-16	北清事変ノ衛生成績一斑…………… 285
5-17	弘済日記——病院船の活躍…………… 287
第5節	助産婦・看護婦の養成…………… 296
*資料	
5-18	産婆養成所ヲ開クノ意見…………… 298
5-19	産婆教育の功労者松山家におくられた感謝状…………… 299
5-20	京都看病婦学校設立に関する演説…………… 299
5-21	普通看病学…………… 303
5-22	日本赤十字社看護学教程…………… 306
第6章	医師の業権の自覚…………… 311
第1節	漢方医存続運動の挫折…………… 313
*資料	
6-1	漢方医による私立病院開設願…………… 315
6-2	漢方医存続に関する上願…………… 316
6-3	東洋医方再興に付意見…………… 317
第2節	医師の権利と義務…………… 321
*資料	
6-4	公立病院廃止意見書…………… 323
6-5	大阪貧民病院設立の趣旨…………… 324
6-6	医薬分業ニ関スル意見書…………… 325
6-7	医薬分業論…………… 326
6-8	本邦女医の由来及其前途…………… 329
6-9	医師報酬規則草案…………… 332
6-10	噫医弊…………… 334
6-11	「医箴」と「医師風紀令」…………… 345
第7章	医療産業と医学出版事業の伸張…………… 347
*資料	
7-1	薬品ノ製造販売及輸入…………… 351
7-2	医薬品・医療器械の輸出入状況…………… 357
7-3	大阪医療理化学器械商組合沿革…………… 386
7-4	売薬論…………… 388
7-5	森田某製「ヘルス」ノ栄養価ニ就

テ……………	390
7-6	日本薬局方選定ノ儀ニ付伺…………… 393
7-7	第四回内国勲業博覧会第五部第四十類審査報告…………… 394
7-8	レントゲン装置の新紹介…………… 398
7-9	『文園雑誌』序文…………… 398
7-10	『東京医事新誌』の創刊…………… 399
第8章	新しい生活とむしばまれるゆく健康…………… 401
第1節	工業と健康…………… 403
*資料	
8-1	高島炭礦の惨状…………… 406
8-2	職業衛生法…………… 408
8-3	東京砲兵工廠職工衛生第一回報告…………… 410
8-4	所謂鉅毒ノ人体ニ及ボス影響ニ就テ…………… 416
8-5	紡績工業ニ於ケル寄宿舎女工ノ衛生経済…………… 422
8-6	衛生と資本…………… 428
8-7	我国ノ工業衛生ニ就テ…………… 430
8-8	職事情…………… 434
8-9	工場法…………… 440
第2節	都市の健康…………… 441
*資料	
8-10	東京市内ヲ疏通スル河水ノ衛生検査成績第一回報告…………… 444
8-11	煤煙防止ニ関スル意見書…………… 452
8-12	明治三十八年に於ける東京府下肺結核死亡調査…………… 453
8-13	社会病としての認識と主張…………… 456
8-14	我邦ニ於ケル精神病ニ関スル最近ノ施設…………… 459
第3節	農村の健康…………… 465
*資料	
8-15	衛生実況巡視復命書摘要…………… 466
8-16	屯田兵村ニ於ケル衛生統計…………… 472
第9章	慈恵医療の限界…………… 479

*資料	
9-1	獄舎報告書…………… 481
9-2	癩病者の救護…………… 485
9-3	同愛社設立願書および仮規則…………… 487
9-4	施薬救療の勅語…………… 489
9-5	実費診療所の設立…………… 489
9-6	盲啞学校創立についての建白書…………… 491
9-7	千葉県育児規則…………… 492
9-8	大和国添下郡貧民施療院仮規則…………… 495
9-9	貧民救済制度に関する意見…………… 497
9-10	明治恤救基金案…………… 500

終章	展望——明治43年における…………… 505
----	------------------------

附録	衛生局第一・第二報告…………… 509
----	---------------------

■年表	…………… 545
■索引	…………… 555

